

## 見 定禅寺の「藤まつり」 見る者の心を奪う古藤の彩と芳醇な香

県指定天然記念物「迎接の藤」が満開に咲き誇った4月29日に、定禅寺(弁城)で恒例の「藤まつり」が開かれました。約100人の来場客が藤棚を囲むように見守る中、住職や虚無僧たちが読経しながら境内を練り歩いた後、献笛やお神酒による供養などで藤の長寿を祈願。「迎接の藤」は5月初旬まで境内を甘い香りで包み込み、今年も多くの花見客を魅了していました。



↑ 紫の花房が春風にそよぎ、甘い香りが包む中、厳肅な雰囲気で開催された藤供養。

↓ 上野焼特有の色合いや温かさを肌で確かめながら、逸品を品定めする陶器ファン。



## 春 第41回上野焼春の陶器まつり 春の新作求め陶芸ファンが上野に集う

上野焼協同組合13窯元による「春の陶器まつり」が、4月25日から3日間、上野の里ふれあい交流会館と各窯元で開催されました。期間中、店頭には個性豊かな作品やお買い得品など豊富な作品が並び、恒例の陶器が当たるスタンプラリーも大好評。訪れた約5千人の陶芸ファンは、お気に入りの逸品を探し求め、好天に恵まれた新緑香る春の上野路を満喫していました。

## 学 平成26年度高齢者大学開講式 学ぶ意欲がセカンドライフに輝きを増す

5月20日に地域交流センターで「福智町高齢者大学」の開講式が行われ、本年度の受講生202人の“学生生活”がスタートしました。講座は50歳以上の町内在住者が対象で、12月までの約半年間、一般教養や15の専門講座のほか、昔遊びを教える小学校訪問やバス研修などを計画。出席した159人の受講生たちは、生きがいと学ぶ喜びを求めて瞳を輝かせていました。



↑ 「楽しく、笑顔で、“休まず”に学びを深めてください」と嶋野町長が受講生にエール。

↓ 「釈迦の生誕を祝い甘い霧が降った」という伝説にちなんで行われる「甘茶かけ」。



## 地 興国寺の「花まつり」 地域をつなぐ信仰心と甘茶の香り

足利尊氏公ゆかりの寺で知られる興国寺(上野)で、「花まつり」が5月8日に行われました。これは境内に設置された花御堂内の釈迦を摸した像に、「甘茶」をかけて生誕を祝う祭事で、その昔、地元小学校が休みになったほどのイベント。「甘茶」は無病息災に利益があると言われ、この日、幅広い年代の住民が参拝に訪れ、昔を懐かしみながら、ほろ苦い「甘茶」を味わっていました。

↓ 海外選手に和を感じてもらおうと、もちつき体験や福智炎運太鼓による演奏体験なども行われました。



## 言葉の壁を越えた心の交流 国際車いすテニス大会「国際交歓会」

今年で23回目を迎えた、飯塚国際車いすテニス大会の出場選手との交流会「国際交歓会」。5月17日に金田体育館で開かれ、約900人の町民が到着した選手たちを盛大に出迎えました。選手たちへの歓迎と6日間の激戦へのねぎらいが込められたステージでは、弁城小児童によるソーラン節や上金田郷土芸能保存会の獅子舞など、福智ならではの催しを披露。最後は会場全体が輪になっての炭坑節総踊りで締めくくり、コートでは真剣な選手たちも、この日はばかりは満面の笑顔で、町民からの温かいおもてなしを楽しんでいました。

## ほとばしる汗が最高の思い出に 町内3中学校で体育会

初夏の訪れを感じさせる快晴となった5月18日、町内の3中学校で体育会が挙行されました。各校ともブロック別に分かれ、全校生徒が白熱した競争のほか、練習を重ねた体操やダンスなど約20種目を披露。中学校生活最高の思い出にしよう、どの種目でも仲間と力を合わせ、一杯汗を流す生徒たちの姿に、会場から惜しめない拍手と歓声が送られていました。



↑ 会場中の視線が注がれた、全校生徒228人によるブロック対抗綱引き(赤池中)。

↓ 夕日が差し込む厳かな雰囲気の中で、練習を重ねた楽を披露する稚児と獅子。



## 後 南木菅原神社神幸祭 世へ継がれゆく伝統の舞

学問の神として親しまれる菅原道真公ゆかりの「南木菅原神社」の神幸祭が、5月2日と3日に神崎の南木地区で催されました。金色の梅紋をあしらった衣装を身につけた12人の稚児と厳かな雰囲気獅子が、神社や御旅所などで楽打ちと舞を奉納。明治初めごろから行われてきたこの祭りは、時代が変わっても色あせることなく、地域の伝統行事として今日まで受け継がれています。